福井藩の歴史　三上一夫著　東洋書院
昭和五七年三月刊　B6　二五八頁

越前の近世史研究は福井藩から着手されねばならないが、本書は同藩の概要をしるうえですぐれて啓蒙的な著書といえる。

幕末の福井藩は、薩長中心の倒幕派と徳川政権の維持をはかろうとする佐幕派との間にあって公武合体運動の旗手として終始重要な役割を果した。本書は幕末・維新期に照明をあてることによって親藩としての福井藩の歴史的性格を明らかにすることに成功している。

氏はこれまでにも『幕末の越前藩』（昭四九）・『公武合体論の研究』（昭五四）など福井藩研究の労作を執筆しているが、本書とあわせて読まれることをおすすめしたい。

（舟沢茂樹）